

## 令和4年度 藤野地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和4年12月8日（木）午後6時から午後7時35分まで
- 2 場 所 藤野総合事務所4階 会議室
- 3 市側出席者 本村市長、大川副市長、石原緑区長、畑緑区副区長  
川村市民局長、長田市民協働推進課長
- 4 出席委員等 21人
- 5 傍聴者 5人
- 6 懇談会の要旨

テーマ1	地域コミュニティの醸成について
概要	<p>藤野地区は、地区の中央を東西に走る国道20号線沿いから、北は陣馬山がある佐野川地域と南は奥相模湖がある牧野地域までの中山間地域であり、集落が点在している地区である。</p> <p>市内で自治会加入率が最も高く、様々な団体等による地域コミュニティ活動が盛んな地域で、藤野に魅力を感じて移住される方も多い。</p> <p>藤野地区のまちづくり会議では、藤野未来部会と環境部会の2つの専門部会を設置し、子どもや高齢者、環境など地域の課題解決に向けて取り組んでいる。</p> <p>自治会活動の取組みや子ども・親たちの居場所など、地域コミュニティの醸成をどのように進めていくか、市と地域が協働して行うことができることは何か懇談したい。</p> <p><b>【藤野未来部会】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや親及び高齢者が交流できる居場所について</li> </ul> <p><b>【環境部会】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の自治会活動のあり方について</li> </ul>
地区の取組状況等	<p>藤野地区は面積が非常に大きく、国道20号が通り、北は陣馬山、佐野川から牧野まであり、50の自治会が点在し、加入者も数人単位のところもある。自治会加入率は8割近くと比較的高い状況である。</p> <p>地域コミュニティの活動も盛んであり、学校や芸術、温泉といった様々な資源が連携しており、テレワークも進み移住者も増えている印象がある。</p> <p>しかしながら、地域に住む子ども達と親が遊び・交流ができる居場所がない状況である。藤野地区には一部の開発されたエリアを中心に、街区公園が6箇所あるのみで各地区にはない。藤野地区は山手線の内側と同等の面積がある中で、徒歩で行ける距離には公園等の居場所がなく、子ども達が学校から家に帰り、それから出かけるのは難しい状況である。</p> <p>地域の子どもや親の人口を考えると各地区に公園等を設置することは現実的ではないと思う。また、車中心の移動であることを踏まえると、定期的に交流できる場所があると良いと考える。</p> <p>実際に地域で活動する団体が山や湖のそばで遊んで過ごせる場所を用意するような取組みもあるが、安全性の問題もあり定期的に利用できる状況ではない。</p> <p>子育て世代がベビーカーで子どもを連れて交流できる場所や、高齢者に対して</p>

	<p>も交流できる場所があることで引きこもり等の予防にもなると考えられる。</p> <p>このような状況から、案としてスポーツ施設である名倉グラウンドの活用はできないかと考えている。名倉グラウンドは藤野地区の中心にあり、駐車場も非常に多く恵まれた環境にある。現在は月に1度、一般開放をさせていただいているが、地域として使い勝手が良いというところまでは至っていない。</p> <p>例えば、遊具エリアの設置や、休憩所の設置等を検討いただけると、多世代交流に繋がるのではないかと考えており、そういった取組みを検討していきたい。</p>
<p><b>市の取組状況等</b></p>	<p>名倉グラウンドは、地域の要望である、こどもの居場所づくりの一助とするために、指定管理者の自主事業という形で、令和4年4月から月に1度、第2水曜日に無料開放し、こどもや親子が自由に運動や遊びを楽しめる場としてご利用いただいている。これまでの無料開放日の利用人数の実績としては、1日約40名の利用がある。</p> <p>名倉グラウンドは、市民の身近なスポーツの場となる公共スポーツ施設であるため、スポーツを通じた地域住民の交流の場づくりの推進を目的とし、利用者ニーズを捉えた魅力ある自主事業の実施などに取り組んでおり、今後、無料開放の実績等を踏まえ無料開放日を増やすことや、例えば親子で楽しめるバドミントンなどのスポーツ用品の貸し出しなども検討する。</p> <p>また、休憩所については、現地も確認させていただいたが、現在はおそらく、グラウンド内のベンチなどを利用して休憩していると思われる。指定管理者との協議の状況にもよるが、運用上可能であれば例えば管理棟の施設を無料開放日に合わせて利用できる検討ができれば良いと考えている。(川村市民局長)</p>

懇談内容	
<p><b>地区の発言</b></p>	<p>こどもや親、高齢者が、いつでも誰でも気軽に行ける、多世代が交流できる広いグラウンドを作りたいことを希望している。</p> <p>そのために、既存の名倉グラウンドを活用してほしい。</p> <p>以前は遊具があったが、現在は無い。就学前のこども達も利用できるような遊具を設置してほしい。</p> <p>中央区はこどもセンターやショッピングセンターがあり、こどもセンターは予約不要で毎日朝から夕方まで空いているが、藤野地区にはこどもをいつでもふらっと連れていけるところがない。</p> <p>藤野中央公民館の保育室の開放は開始されたが、未就学のこどもが動き回るには広さが不足しており安全に遊べる場が必要。</p> <p>中央区の横山公園では囲碁を楽しんでいる男性や、お茶を楽しんでいる女性があり、その隣でよちよち歩きのこどもが歩く練習をしていて自然と多世代交流の場が出来ているため、そのような環境が藤野でも実現できれば良いと考えている。</p> <p>中山間地域である藤野地区が子育てしやすい環境となるよう、名倉グラウンドが毎日利用でき、こどもセンターの役割を担えるように、遊具の設置などを検討してほしい。</p>
<p><b>市の発言</b></p>	<p>名倉グラウンドに関するご提案について、名倉グラウンドはスポーツ施設として指定管理者に管理をさせていただいている。</p>

	<p>指定管理の期間内に、施設の一部を公園や広場に変えて運用することは現実的には難しいと考えている。</p> <p>しかしながら、名倉グラウンドの利用率を見ると、利用率が高くないスポーツ施設もあるため、指定管理者との協議にはなるが、月に1回の開放日を増やすなど、指定管理者の自主事業の中で、地域のご要望に沿えるよう検討していきたい。</p> <p>また、以前は今のゲートボール場に遊具が設置されていたと承知しており、現状ゲートボール場の利用は少ないが、来年の1月から予約が入っている。</p> <p>このような状況も踏まえると、まずは自主事業の中で開放日を増やし、バドミントンやボールの貸し出しをするといった検討を進めていきたいと考えている。</p> <p style="text-align: right;">(川村市民局長)</p>
<p><b>地区の発言</b></p>	<p>名倉グラウンドのことは一応納得しましたが、こどもセンターに代わるものとして、令和4年度末で閉園と聞いている日連保育園の跡地を活用出来ればとの希望を持っている。希望として聞いていただきたい。</p>
<p><b>市の発言</b></p>	<p>日連保育園については、令和5年度に建物を解体する予定であり、解体後の土地は売却することになっていると伺っている。今後、担当部局が説明会を開催すると伺っている。(川村市民局長)</p> <p>災害があり名倉グラウンドに土砂等を仮置きしていた際に伺ったことがある。市民局長からも話があったが指定管理の見直しが令和9年までないが、地域の意見も踏まえて、指定管理者と話をしていかなければならないと感じる。</p> <p>相模湖のまちづくりを考える懇談会でも話したが、児童クラブの対象は4年生までになっている。いつからやるということは申し上げられないが、今後状況を見極めて6年生まで広げ、こどもの居場所づくりに取り組んでいこうと考えている。</p> <p>また、改めて現場に行きたいとも考えている。</p> <p>遊具について、すぐにできますとは言えないが、利用頻度がどの程度見込めるか見極める必要もあると感じる。現状の水曜日の開放では、働いている保護者の方のことを考えると、使い勝手が悪いと思われる。</p> <p>日連保育園は災害により一部損壊の被害があり、レッドゾーンにかかっていた(正しくはレッドゾーンに隣接している状況であった旨、懇談会内で訂正した。)と思う。こども達の減少もあり、ふじの幼稚園と統合し廃止することとなった。</p> <p>日連保育園の跡地について売却するとの話があったが確認させていただく。</p> <p>旧市にこどもセンターがあって、旧町にはないとの話について、どのような形が子育てをしやすい環境につながるのか、担当の局長とも話をしてみたい。来年つくりますということとは言えないが、今後施設の統廃合も進めていく予定である。</p> <p>藤野は非常に面積も広いので、移動手段も踏まえて、どこに拠点を作ることが良いのか考えなければならぬと感じる。</p> <p>今日いただいたご意見も持ち帰って、子育て世代の皆様が子育てしやすい環境を作るため、寄り添える対応ができるよう検討していきたいと思う。</p> <p style="text-align: right;">(本村市長)</p>

<p><b>地区の発言</b></p>	<p>名倉グラウンドには管理棟があるが、高齢者や乳幼児が気軽に交流ができるような場所として管理棟が開放できないか。</p> <p>藤野地区には市民に開放された屋内のスペースがなく、夏場の熱中症や冬場に寒さをしのげる場所がない。</p> <p>高齢者や乳幼児などが、世代を超えた交流が出来る場所として、有料施設ではなく、無料で自由に利用できる場所があれば、高齢者の引きこもりや介護予防につながることも期待できる。</p>
<p><b>市の発言</b></p>	<p>管理棟を実際に見たが、熱中症や寒さ対策として、管理棟の入口にある小ホールや小会議室を自由に使える屋内の居場所として活用ができるか、指定管理者と協議し検討したい。（川村市民局長）</p>
<p><b>地区の発言</b></p>	<p>先ほどの児童クラブの話について、6年生まで拡充することは未来部会の前身のこども子育て部会でも議論していた。</p> <p>こどもの居場所の課題に対して6年生まで広がれば課題解決につながるため、ぜひ前向きにご検討いただきたい。</p> <p>また、小学校に入る前のこどもについて、名倉グラウンドが上手く紐づけできればと思っている。指定管理の仕組み上、実施できる範囲というのはあると思うが、スポーツでしか使えないことは、融通が利かないことも発生してしまう。</p> <p>人口が減少していく中で多目的利用が出来るよう、スポーツだけでなく公園利用も上手く合わせ込めるような検討をしていただけると、地域で使いやすい施設になると思われる。</p>
<p><b>市の発言</b></p>	<p>児童クラブに関しては内部で検討し、できることからやっていきたいと思っている。</p> <p>施設利用料の見直しについて、平成24年から3年に一度実施しており、受益と負担のあり方の中で、施設利用料が上がる場所と下がる場所がある。</p> <p>市議会で議決されればの話にはなるが、来年の10月からこども料金の無料化を提案し、こどもの支援に関する施策を充実させていきたいと思っている。</p> <p>千木良保育園も閉園し更地となったが、地域に開放してもらいたいとの要望があり、その方向で進めている。</p> <p>名倉グラウンドは指定管理であるためハードルはあるものの、集まれる場所は非常に大事だと改めて感じた。公民館や体育館なども老朽化している。学校の統廃合も進んでいるが、どこに拠点を置くかといったことも踏まえて検討していきたい。（本村市長）</p>
<p><b>地区の取組状況等</b></p>	<p>藤野地区は人と人との繋がりが強く、連帯意識も他の地区に負けないような強さがあると自負している。</p> <p>他地区でも同様な状況であると思うが、藤野地区でも人口減少、過疎化、高齢化、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で自治会活動が十分にできてない。</p> <p>しかし、その中であっても藤野地区の長い歴史と伝統の中で、各自治会における道路の清掃や美化活動、防災訓練等の活動、夏祭りや新年会を始め、色々と工夫した懇親会等を行って会員の融和が図れるように活動している。</p> <p>また、各自治会では自治会報などを発行し、人と人との繋がり、連携を図っている。</p> <p>このように、自治会役員も努力はしているが、藤野地区は現在50自治会、世</p>

	<p>帯数は2, 523世帯の規模であるが、10年前の平成24年と比較すると、自治会数は50自治会で変わらないものの、世帯数は2, 803世帯であり、10年間280世帯が減少しており、今後もこの傾向が続くのではないかと心配している。</p> <p>人口減少、過疎化、高齢化等の影響で各自治会では会員を辞めていくこともあり、また、新しく引っ越してこられる方も、すんなりと自治会には入会しないような状況も一部ある。</p> <p>高齢化により役員を担えない状況も見受けられ、今一番考えているのは、自治会員の減少をどうしたら食い止められるかということ。</p> <p>藤野地区だけの課題ではないと思われるが、自治会員の減少を食い止める方策や役員のなり手の確保に関する方策について教えていただきたい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>自治会は地域住民の自主的・自立的な組織として、地域コミュニティの形成を図るとともに、防災、防犯、環境美化、福祉等、身近な課題解決の中心的な役割を担っていると考えている。</p> <p>自治会の加入率については、市全体でも年々減少傾向にあり、令和4年度の市内の平均が48.45%となっており、市としても加入率の減少を食い止める必要があると課題に感じている。</p> <p>藤野地区については令和4年度の加入率は77.95%であり、市内22地区で一番加入率が高くなっており、自治の意識が高い地区であると認識している。</p> <p>参考として周辺地区の加入率としては、相模湖地区で65.1%、津久井地区が61%、城山地区が56.3%となっている。</p> <p>現在、自治会の加入促進については、相模原市自治会連合会と連携して実施しており、イベント等の機会を捉えた啓発グッズの配布、市役所窓口での転入者等へのリーフレットの配布などを行っている。</p> <p>相模原市自治会連合会では、J i c h i P a s s という自治会員のメリットとなる取組みを進めており、例えば病院やレジャー施設と連携し、毎年 J i c h i P a s s を自治会加入世帯に配布しており、令和4年度は J i c h i P a s s の協力店の拡大に取り組んでいる。</p> <p>また、令和4年度は、市から相模原市自治会連合会に交付している奨励金を、新規自治会加入世帯数に応じて交付する部分を設け、自治会加入促進に取り組んでいる。</p> <p>その他、市独自の取組みとして、自治会をはじめとした地域活動団体の活性化を図るため、地域活動団体に関するアンケート調査を実施している。本調査は地域活動団体の役員の方と、無作為抽出した市民の方を対象としており、今後調査結果を踏まえて加入促進等を図っていきたいと考えている。</p> <p>自治会の加入率が低下すると、自治会がその役割を十分に発揮できなくなることが懸念され、身近な地域活動の持続性にも大きく影響してくることが考えられる。今後も相模原市自治会連合会と連携し、様々な媒体や手法を検討し、自治会加入促進の取組みを継続していきたい。</p> <p>また、アンケート調査では自治会活動の状況や課題、改善策も調査しており、今後、調査結果を踏まえ、自治会活動の活性化のための取組みを検討していく。</p> <p style="text-align: right;">(川村市民局長)</p>

	<p>緑区役所の自治会加入促進の取組みとして、まちづくりセンターでは、例えば転入者に自治会に関するリーフレットを配布し自治会についてPRしている。</p> <p>また、イベントについては新型コロナウイルス感染症の影響で開催出来ない状況もあるが、藤野地区では藤野ふるさとまつりで自治会員の皆様と共に自治会加入促進活動を実施した。</p> <p>自治会の地域情報紙についても、自治会員に見ていただけるよう、例えば藤野駅に配架するなど、自治会の取組みが目に触れるよう工夫している。</p> <p>また、自治会を辞める方について、相模湖地区で昨年1年間、自治会を辞めた70世帯の方にアンケート調査を実施しており、回答として1番多かったものは、引っ越しであったが、2番目が役員をやりたくないから、3番目が高齢だからとの理由であった。おそらくこの結果は全国の自治会共通の課題だと思われる。</p> <p>自分自身が加入している自治会でも、高齢の方が役員ができないため辞めたいとの話があり、続けていただくにはどのようにしたらよいかという話になった。</p> <p>例えば、高齢者の方の役員免除や会費免除など色々な工夫をしている自治会もあると聞く。市としても、他地区の色々な課題と先進事例を調べ皆様方と共有し、検討していきたいと考えている。(石原緑区長)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>藤野地区は大小50の自治会があるが、3年前から新型コロナウイルス感染症の影響で自治会活動は縮小している。</p> <p>自治会としては、お祭りごとのイベントを再開したい気持ちが強く、昔から続いている伝統を守りたい、お祭りごとの楽しさを知ってもらいたいといった気持ちが非常に強くある。</p> <p>こどもの頃を思い出すと、お祭り時期になると聞こえてくるお囃子や山車など見ることでわくわくしたが、今のこども達は新型コロナウイルス感染症の影響で、機会がなくなってしまったと思う。</p> <p>そこで、現在の新型コロナウイルスの影響がある状況で地域を盛り上げた事例や自治会活動を盛り上げるために市が協働していただけることはないか。</p> <p>また、地域活動団体による、自治会活動の手伝いや市内自治会の交流などを提案したい。</p>
<p>地区の発言</p>	<p>自治会退会者の問題について、退会者に理由を聞くと一番は高齢化もあるが体力的な問題、二番目は年金生活のため会費を払うことが厳しいという金銭的問題の大きく2つの問題がある。</p> <p>現在自治会費の他に市の奨励金により自治会活動を行っているが、例えば年金生活者への支援等が可能であればお願いしたい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>自治会等活動推進奨励金については、これまで年度当初の世帯数を基にして金額を算出していたが、今年度は年度途中で自治会に加入した世帯にも奨励金を交付する取組みを実施している。</p> <p>高齢者が負担なく加入を継続するための支援として、自治会により年齢構成や活動内容、会費に違いがあるため、市として一律に制度を設けることは難しいと考えている。</p>
	<p>市内でも高齢者世帯の役員免除や会費の減免など工夫をしながら活動している自治会もあると伺っているため、そのような事例を収集し共有していくとともに</p>

	<p>に、自治会加入世帯を増やす取組みなどを進めていくことで、自治会員一人ひとりの負担を軽減し、無理なく活動を継続できるよう支援していきたいと考えている。(川村市民局長)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>J i c h i P a s s について、藤野地区の事業者の登録がないが、登録が進まない課題があるのか。また、J i c h i P a s s を藤野地区で展開していく上で課題等があるのか伺いたい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>J i c h i P a s s については現在、相模原市自治会連合会が中心となり登録事業者の拡大などに取り組んでいる。藤野地区の事業者の登録がない点については、引き続き登録の促進に取組み、事業者が増えると良いと考えている。</p> <p>登録事業者が増えることで、自治会の魅力やメリットも増えると考えている。(川村市民局長)</p> <p>J i c h i P a s s は自治会に加入している方に配布しているもので、開始してから30年近く経過しているが、なかなか利用されない状況にある。</p> <p>内容を見ると、例えば人間ドックの割引など年間の自治会費に相当するような大きなメリットもあるが、就労している世代は他で厚生会のようなメリットを受けることも出来るため魅力がないと感じる場合もあると思われる。</p> <p>現在、登録店舗を増やすため、地域のお店にJ i c h i P a s s に協力していただけるよう取組みを進めており、可能であれば10%割引等の特典も魅力的だが難しい部分もあるため、例えば1ドリンクサービスや、スタンプカードがある店舗であればスタンプを増やしてもらおうといったメリットを増やし、若い方が自治会に入るきっかけに繋げていけたら良いと考えている。</p> <p>宮野代表の方でも、自治会長会議等で取組みについてご説明をいただいていると伺っている。</p> <p>今年度から取組みを強化し進めているため、今後、登録店舗が増えていくと考えており、地域の皆様とも一緒になって取組みを進めたいと考えている。</p> <p>また、J i c h i P a s s の協力店として登録していただいた場合、のぼり旗やステッカーの配布も予定しており、併せてJ i c h i P a s s 協力店を冊子としてまとめ自治会加入世帯に配布する予定であり、協力店にもメリットになると考えている。(長田市民協働推進課長)</p> <p>J i c h i P a s s は約30年前から実施しているが、市の職員でも知らない人がいる。これは課題だと感じ、藤野地区自治会連合会の宮野会長をはじめ、相模原市自治会連合会の竹田会長とも連携し取組みを進めている。</p> <p>市長就任時に相模原市の自治会加入率が約52%だった。算出方法に違いがある場合もあるが、例えば当時横浜市が約70%、川崎市が約60%、浜松市や新潟市は90%を超える状況にあり、当時担当課に要因を調べるよう指示した。</p> <p>その中で、どのようにすれば自治会加入率が向上するか議論し、相模原市自治会連合会と連携しJ i c h i P a s s を改めて周知し、地域の皆様にご理解いただき取組みを進めることとなった。</p> <p>また、自治会等活動推進奨励金を新規加入世帯に応じて交付することとし、加入促進に強く取組まれた自治会に対しては、奨励金を多く出せるような仕組みを作った。</p> <p>市内には約35万世帯あり、空き家は約3万6千戸あるが、マンションやアパ</p>

<p>市の発言</p>	<p>ートなどの集合住宅が約半分の17万世帯となっている。集合住宅の自治会加入をどのように進めるかも課題であり、不動産会社との連携や、マンションに一括で自治会に入っただけのような方向性で見直せないか対応を進めている。</p> <p>私自身、社会福祉協議会や民生委員児童委員協議会など様々な方にお会いする中で、地域コミュニティの重要性を改めて認識する。地域コミュニティの基本は自治会だと思っている。（本村市長）</p>
<p>地区の発言</p>	<p>J i c h i P a s s について、30年近く取り組んでいる中でなぜ浸透していないか、課題認識があれば伺いたい。</p>
<p>地区の発言</p>	<p>J i c h i P a s s については、自治会連合会で取り組んでいるため自治会連合会として答えさせていただく。</p> <p>J i c h i P a s s については自治会長会議の時にも周知しており、各単位自治会でも会員に周知するようお願いしている。基本的には単位自治会で J i c h i P a s s の周知に協力していただけないと、なかなか浸透していかないものと考えている。</p>
<p>地区の発言</p>	<p>今後、市の広報でも J i c h i P a s s を紹介していただけると浸透していくと思われる。</p> <p>特典を目的に自治会に加入しているわけではないが、プレジャーフォレストやサマーランドの割引など、子育て世代には魅力のある特典もあり、知られていない現状もあるため、子育て世代にもアピール出来るよう、周知方法を市でも強化していただくと前に進むと思う。</p>
<p>市の発言</p>	<p>J i c h i P a s s を見ていただくと、魅力を感じる登録店舗が少ないと感じるため、さらに内容に魅力を持たせることも大事だと考えている。</p> <p>（長田市民協働推進課長）</p>
<p>地区の発言</p>	<p>藤野観光協会では7年間、移住定住促進事業を実施している。</p> <p>移住者からよく聞く話として、藤野地区に住んでる方は非常にウェルカムな姿勢であると言われる。</p> <p>その姿勢の基になっているのは、自治会の活動であり、自治会が作っている地域のイメージだと感じる。</p> <p>これまでは、自治会に加入すると、家族も含めて総会や新年会に招待し、紹介しながら一緒にお酒を飲んで地域に馴染んでいくことが出来たが、この3年間は出来ておらず話をする機会もないため非常に心配している。</p> <p>打開策を持っているわけではないが、まずは自治会で w i t h コロナの中で自治会活動をどうしていくか、新しい加入者をどうしていくか検討していくことが必要であると考えており、自治会連合会や行政とも情報を共有し、相互に良い例があればお互いに高めていく必要があると感じている。</p>
<p>地区の発言</p>	<p>本日の懇談会では子どもや高齢者の集える場所について、市も考慮するという話になり前向きに進んだと感じる。</p> <p>また、自治会活動については、相模原市自治会連合会に加入促進部会があるため、その中でも自治会加入促進と退会防止等を考えていきたい。</p> <p>藤野地区の自治会加入率は市内トップだが、約3割は加入していない。</p> <p>これまでも、高齢者の会費免除や美化キャンペーン活動の免除などの案は出ており、最終的な実施は単位自治会の判断だが、引き続き単位自治会に対し例を</p>

	<p>示すなど取り組んでいきたい。</p> <p>また、自治会活動に協働いただける企業や飲食店を探すことも継続したい。</p> <p>藤野地区はまだまだ前進する地域だと考えており、皆様の色々の意見を取入れながら取り組んでいきたいと考えているため、引き続きよろしく願いたい。</p>
--	--

<p><b>市長の感想等</b></p>	<p>これからも皆様と対話を続けながら、しっかり未来を見据えた地域づくり取り組んでいきたい。</p> <p>本日のテーマにあった居場所づくりは1つの課題だと感じた。まずは名倉グラウンドを見に行き、改善できるか検討し、子どもやシニア世代の方々の居場所を考えていきたい。</p> <p>子どもセンターという具体的な話もあったが、子育てしやすい環境をどう作っていくか常に考えており、子育て、教育、まちづくりの3つについて、尖った施策を出さないと、子育て世代も集まってこないと思われ、皆様と対話しながら進めていきたいと考えている。</p> <p>年に1回の懇談会だが、本日は大川副市長以下、各課来ているため、今後も皆様とひざを突き合わせた対話を進め、交流を深めていきたい。</p> <p>また、自治会活動について、藤野地区の77.95%という加入率は市内随一で、他地区は藤野地区の取組みを学びたいと感じていると思われ、私自身も藤野地区の取組みを勉強したいと思う。</p> <p>J i c h i P a s s については約30年続けてきたが、今一度取組みを見直そうとしており、市民の皆様を知っていただけるような形を作りたいと考えている。</p> <p>そういった意味では、市でも現在、新たな条例として人権まちづくり条例や犯罪被害者の支援条例、健康増進の条例の3つの条例策定を進めているが、市民の皆様は、我がまちの条例を知っていますかと聞いても、おそらく具体的に答えることは難しいのではないかと感じており、私共も、皆様にとって分かりやすくなるよう取組みを進めていきたいと考えている。</p> <p>情報伝達として、広報さがみはらを全戸配布したいと考えているが、全戸配布した場合プラスで3億6,000万円かかると試算があった。</p> <p>どのように72万市民に的確に情報を伝えるか考えているが、その1つが自治会で、皆様が口コミで広めていただくことも大事だと考えている。</p> <p>今後も、わくわくするまちづくりを進めるため、皆様と対話をしていきたいと考えている。(本村市長)</p>
----------------------	---